

## 1. 今後の典礼

日	主日	聖書朗読	司式	送迎
2024.10.13(日)	年間第 28 主日	マルコ 10・17-30	テハン師	野口
2024.10.20(日)	年間第 29 主日	マルコ 10・35-45	テハン師	鈴木
2024.10.27(日)	年間第 30 主日	マルコ 10・46-52	テハン師	松澤(ま)
2024.11.3(日)	年間第 31 主日	マルコ 12・28b-34	韓師	-
2024.11.10(日)	年間第 32 主日	マルコ 12・38-44	テハン師	岩城

## 2. 今後の集会・研修会・講演会等

- 「召命の集い」(社会人・学生) 10/12(土) 11:00~15:00 カトリック新子安教会 指導:バリー・ケズ師  
持ち物:聖書、筆記用具 申し込み先:カトリック雪ノ下教会 保久要神父
- 「一粒会大会」10/14(月、祝日) カトリック松本教会 12:00~15:00
- 「ザビエル祭 2024」11/23(土・祝日)、会場:日本カトリック神学院 開場:9:00 ミサ:10:00~  
コンサート:11:45~講演:12:30~「すべての人を一つにしてください」司式:長崎大司教区 中村倫明大司教
- 新刊書籍「預言者の言つて」長崎教区 古巣馨神父著 (カトリック生活好評連載の書籍版@1,430-)

## 3. 今後の予定

- ・10月 はロザリオの月です。ごミサ前 10:30 から願いと希望を込めてお祈りいたしましょう。
- ・10/13(日) 教会バザー 12:00~15:00
- ・「交わりの集いとミサ」平塚教会 10/20(日) 13:00~
- ・キャロリング合同練習の予定 : 10/27(当教会)、11/24(三沢橋)

## 4. 「教会」

聖書研究会で「第 2 パチカン公会議が望んだ教会とはどんな教会ですか」一緒に考えましょうと課題の提起がありました。公会議の精神を汲んで前進しようとしていますか？この公会議開催の決定はヨハネ23世教皇様で当時 77 歳というご高齢でしたが、「開かれた教会、裁くのではなく対話する教会、苦しむ人たちと歩む教会」とした点で大変評価をされたそうです。長い歴史の中で福音に忠実に、しきたりと慣習が見直された内容で、教皇様は「伝統とは過去を荷のように負い続けることではない。伝統とは新しい時代の欲求に応える能力を意味し、源は原点にある」と仰ったそうです。私たちに身近な国内の出来事として、阪神淡路大震災の一か月後に、大阪教区が「新生の明日を求めて」という文章を発表し、「護りの教会から交わりの教会へ、宣教の共同体へ」と想いの転換をし、被災地域の多くの建物が被害を受け、教会は信者のためのものでしたが、聖堂が助けを求める人々の避難所になった現実、信徒と被災者の方々にとって、とても象徴的だったと言われています。教会は人が神様と出会う場、出会いのしるしであり、教会に属していない方々の叫びに耳を傾け、ともに歩むことが私たち信徒と教会の存在意義であることを確認されました。教皇様の聴罪司祭のラニエロ・カンタラメッサ師(元ミラノ大学宗教学部長、パチカン説教師)は著書「ミサと聖体(私たちの成聖)」の中で「小教区」という語源は「さすらいの身、仮住まいの身」で本来の意味が失われていると書かれています。私たちが必要としているのは、「巡礼と喜びの場所の教会」であり、様々な奉仕と活動、おもてなしを提供するセンターの役割でなく「神様の現存を感じさせる場」でなければならないと述べておられます。ご指導をいただいた司祭も「天の都」を求めて旅をする意味で小教区は仮の住まいの場、本国は天にありとして意味を持つのは、「教会が社会にないものを持っているときで、父なる神のみ旨の実現の時」だと教えていただきました。私も神様から呼ばれその声に従った方々の中の 1 人として、生活の中で「励まし、助け合い」の気持ちを持ち、自問自答しながら聖霊の導きに従い、世の中の道具として生活することを心掛けたいと思います。(oi)